

1表 53年度一般会計予算執行状況

(単位:万円)

歳入			歳出				
科目	現計予算額	収入済額	収入歩合	科目	現計予算額	支出済額	支出歩合
市税	118,210	64,415	54.5	議会費	9,059	3,849	42.5
地方譲与税	4,700	1,229	26.1	総務費	67,309	23,568	35.0
自動車取得税交付金	4,900	2,037	41.6	民生費	90,099	38,023	42.2
地方交付税	123,770	92,462	74.7	衛生費	21,427	7,576	35.4
交通安全対策特別交付金	542	-	-	労働費	9,443	5,260	55.7
分担金及び負担金	6,876	3,124	45.4	農林水産業費	50,887	10,602	20.8
使用料及び手数料	9,693	4,285	44.2	商工費	13,684	6,431	47.0
国庫支出金	107,500	26,126	24.3	土木費	121,798	30,935	25.4
県支出金	41,216	3,916	9.5	消防費	14,188	6,034	42.5
財産収入	4,931	3,839	77.9	教育費	114,118	28,161	24.7
寄附金	1,008	308	30.6	災害復旧費	394	2	0.5
繰入金	7,800	-	-	公債費	16,181	7,085	43.8
繰越金	26,318	26,318	100.0	諸支出金	5,000	4,950	99.0
諸収入	27,542	2,679	9.7	予備費	309	-	-
市債	48,890	-	-				
歳入合計	533,896	230,738	43.2	歳出合計	533,896	172,476	32.3

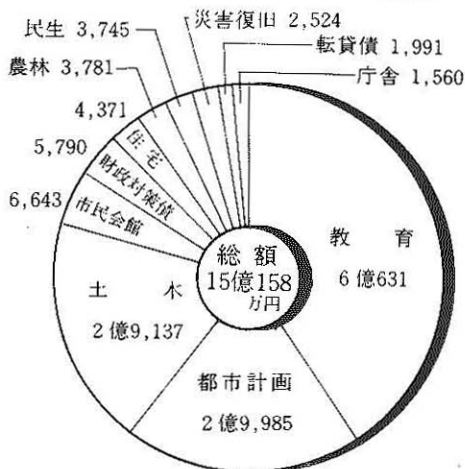
この財政状況は、年二回定期的に公表して市民のみなさんに市の財政事情を正しく理解していただき「明るく豊かで住み良い環境のもとに文化的な生活が営める都市づくり」にご協力願うものです。

今回は、昭和五十三年四月一日から九月三十日までの上半期について、予算執行状況、市税収入の状況、市債現在高の状況を公表します。

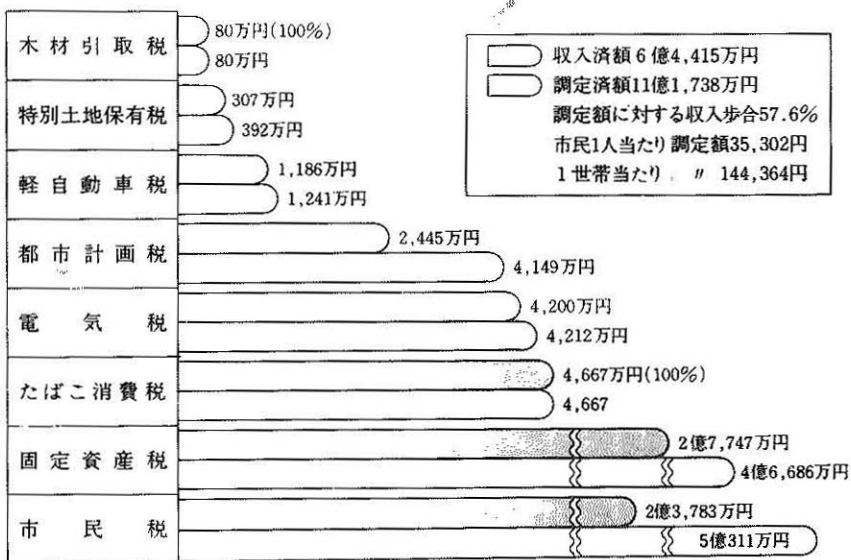
市の財政事情

3表 一般会計市債の状況

(費途別単位:万円)



2表 53年度市税収入の状況



5表 特別会計市債の状況

(単位:万円)

会計別	区分	現債額	借入先
市有林造成事業		10,920	農林漁業金融公庫
簡易水道事業		10,476	資金運用部簡易保険局
下水道事業		7,980	資金運用部公営企業金融公庫

6表 市有財産の状況



4表 53年度特別会計予算執行状況

事業	(予算額) 万円	(収入済額) 万円	(支出済額) 万円
市有林造成事業	2,440	286	1,258
育英資金	1,677	1,130	375
農業共済事業	7,576	3,989	1,579
土地区画整理事業	2億9,203	205	1,951
下水道事業	4億7,222	8,824	1億7,430
国民健康保険事業	7億1,000	3億1,421	2億4,729
同鹿谷直診勘定	1,460	553	627
簡易水道事業	1,514	516	701

基金とは、将来にわたって特定の目的のために財産を維持し、その利益を運用するために設けるもので、即ちの主要なものとして、多額の買収を要する下水道事業、この施設建設事業等におけるための財政調整基金(1億9,800万円)、その他土地開発基金(1億5,000万円)や育英基金(1億9,900万円)などがあります。



日本損保協会から 最新鋭消防車贈られる

社団法人 日本損害保険協会（菊池 総会長、火災保険会社 二十一社加盟）の金沢地方委員会（増田三郎委員長）は十月二十五日、勝山市へ消防自動車一台を寄贈しました。三十五年につく二百目の寄付です。

寄贈された消防車は、標準型消防ポンプ車で、四輪駆動のジープ型。ポンプ性能は国家検定A1級合格というポンプ車としては最高、送水圧力は八・五（一平方メートルあたり）で、毎分二千八百以上の放水量を誇り、四丁、百三十ccの国産ガソリンエンジン（百二十馬力）を積載しています。油圧に備えて、空気泡（ほう）原液百、粉末消火器三個、空気泡ノズル二本を積んでいます。乗員は六人、このほかホース十本、拡声機、スライクタイヤ五本が付属して

おり、約七百五十万円。同協会は、火災予防、交通安全対策などの事業を行っており昭和二十六年以来、消防車千二百台、救急車二百六十六台などを全国の自治体へ消防、救急設備として寄付しています。

勝山市へ寄贈の消防車は千二百一十台目となり、贈呈式は中央公園広場で関係者が出席して行われ、火災保険号勝山と命名された新ポンプ車の前で、同協会金沢地方委員会の増田委員長から島山助役に目録が渡されました。それぞれあいさつがあった後、テスト放水を行い、式を終りました。

その後、勝山ライオンズクラブ寄贈の防火査察車、ライオンズ号を先頭に市内をパレード市民に披露しました。

火の用心
シロノ熱が市民の間に高まり、中日本、北信越などの大会を誘致、これを成功させるのを、一方、県民、団体でも好成績をおとしています。十周年を機会にさらに市民のスポーツ熱を盛り上げようと記念展を開いたわけ

走り高跳びの
門下生に保体委員賞
53年度市教委表彰

勝山市教育委員会は、本年度の学校教育、保健体育、社会教育、文化に功労のあつた十七人と六団体を十一月三日午前十時から市役所会議室で表彰しました。また、同席上教育関係に多額の寄付をされた四人に感謝状を贈りました。表彰を受けた方々は次のとおりです。（敬称略）

▽学校教育奨励賞 田島洋也（北谷小教諭）▽学校教育賞 細野一雄（村岡小教諭） 坂井義夫（中部中教諭）▽社会教育賞 滝田八郎（長山町一）▽保健体育賞 門 典男（中部中三年）▽保健体育奨励賞 大西真智子（若猪野） 田中亜子（北郷町東野） 勝山精華高校バドミントン男子チーム、同ソフトボール女子チーム、勝山市バドミントン協会女子チーム 勝山自転車競技クラブ、勝山卓球クラブ女子チーム、勝山市バレーボール協会翼クラブ▽保健体育功労賞 高橋 武（立川町一） 梶山武雄（郡町一） 太田兼平治（芳野町二） 大道 忠夫（郡町二）▽文化賞 土 田中金男（北郷町東野）

林道法恩寺線の建設促進に
期成同盟会設立総会
会長に池田市長

村岡町暮見から大野市の南六呂師に至る大幹線林道法恩寺線の建設促進期成同盟会設立総会が十一月八日午後二時から教育福祉会館で開かれ、正式に発足しました。会長には池田勝山市長、副会長には川崎大野市長が選出され、今後県と協力して、同線に対し早期完成を働きかけることなどを決めました。

から法恩寺山一標高千三百五十七（七）の中腹を通り、弁ヶ滝から保月山（標高千二百七十二）の中腹を抜けて大野市の南六呂師に至る延長二万六千三百九十九（七）の林道築造は県管事業として四十七年に着手、勝山・大野両市で三億七千万円をかけ、五十二年度までの開設延長九千六百十八（八）を完了しました。その進捗率は三六・四％。

教育福祉会館で十一月二日から五日まで、福井国体十周年記念資料写真展が開かれ、訪れた市民は感激を新たにして当時をなつかしんでいました。

10年前の感激新たに
福井国体記念展開く

計画では総事業費十七億円をかけ六十一年ごろをメドに完成させたいとされていますが、同期成同盟の設立で、停滞している促進運動に積極的に取り組もうということでは、勝山、大野両市と県関係者約三十人が出席、会則を審議した後、二十八人の役員を選出しました。この林道設立総会では、勝山、大野両市と県関係者約三十人が出席、会則を審議した後、二十八人の役員を選出しました。この林道設立総会では、勝山、大野両市と県関係者約三十人が出席、会則を審議した後、二十八人の役員を選出しました。

は県が計画を進めている奥越大森林公園の一環としての役割も高く、林業開発の中核をなすもので利用区域総面積三千四百五十ヘクタールの林道となります。総会では▽建設促進のための農林水産省、大蔵省、自治省に対し、近日常に陳情を行う。▽早期完成と過疎対策について働きかけるなどを決め終わりました。

念資料写真展が開かれ、訪れた市民は感激を新たにして当時をなつかしんでいました。

勝山市は福井国体の際、ソフトボールをはじめバドミントン、クレー射撃、山岳競技の四種目の会場となり、市民も国体を成功させようと大変な意気込みで全国からの参加選手や役員に好感を与えました。

会場には、国体旗が飾られ、四種目のポスター、プログラム各種目の参加申し込み書など、写真パネル五十点、変わったものでは、山岳競技のコースを印刷するのに使われた活版も展示されました。

また、四日には視聴覚室で国体の記録映画も上映され、同展を盛り上げました。本市では国体以来、ソフトボールやバドミントン熱が市民の間に高まり、中日本、北信越などの大会を誘致、これを成功させるのを、一方、県民、団体でも好成績をおとしています。十周年を機会にさらに市民のスポーツ熱を盛り上げようと記念展を開いたわけ

小・中学生の読書欲を高めてもらうため、勝山ロータリークラブ（松村季夫会長、三十八人）は広く献本運動を行ってきましたが、この程献本二百三十冊と新刊本百冊を勝山公民館図書室へ寄贈しました。

この日参加したのは、小・中学生、一般約二百三十人。なかには丸岡町からの参加もあり、大会を盛り上げました。二、五、八、の三コースで同支部前をスタートした一団は勝山橋を渡り、九頭竜川左岸沿いに懸命に力走しました。沿線では、父兄や住民が盛んに声援を送り、市民あがりのレースとなりました。約六分後二、コースの小学生がゴール。続いてそれぞれのコースの選手がゴールインし、全員が完走しました。

～ロータリークラブ～
「ジュニア版古典文学全集」など334冊
勝山公民館へ寄贈

勝山青年会議所（古川一治理事長）はこの程、荒土町松ヶ崎の主要地方道福井―勝山線沿いに、同線バイパス早期完成と交通安全を訴えた大きな看板を立てました。

看板の大きさは縦三・二、横五・五、脚部を合わせて約八メートルあります。製作費約十五万円。福井方面への側には、「勝山―早期バイパス完成―福井」の「ゆずりあう心で走る日本の道」と書かれています。

